

国際広報メディア専攻

平成30年度
前期

日本語論述

10:00～12:00

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
2. 問題紙はこの紙を含めて2枚ある。
3. 解答用紙（25字×40行＝1000字）は2枚ある。
4. 解答用紙は2枚とも必ず提出すること。
5. 受験番号はすべての解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
6. 選択した問題番号はすべての解答用紙の指定された箇所に必ず記入すること。
7. 解答はすべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
8. 下書き用紙は別途配布されるが、問題紙の余白を下書きに使用しても差し支えない。
9. 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題 1～4のうちから 1 題を選択し、1600～2000 字の日本語（横書き）で記述しなさい。なお、適当な箇所で行って段落に分けること。また、字数は改行のための空きを含めて計算する。

【問題 1】

インターネット上では特定の個人にとって不利益となる情報がいつまでも削除されず、公開され続けるという事態がしばしば発生する。このため、自らの逮捕歴、犯罪歴の情報が検索可能なままネット上に掲載され続けた当事者が「忘れられる権利」を盾にグーグルに対して関連情報の削除を求める訴訟を起こすという事例も起きた。「忘れられる権利」に基づく情報削除は認められるべきか否か。認められるとすれば、削除の可否を判断する基準はどう定めたらよいのか。また、認められないとすれば、その論拠は何か。多角的な視点から「忘れられる権利」の是非を論じなさい。

【問題 2】

古今東西、ある地域で社会的地位において劣位にある言語や方言が、社会的に優位な地位にある言語に駆逐され、消滅の道をたどるといった現象が繰り返し見られてきた。メディアの発達した現代ではなおさらその傾向が顕著である。一方で、例えばハワイ語やマオリ語など、一時は存続が危ぶまれながらも復興を遂げた言語の事例もある。

そこで、実際の事例をいくつか参照しながら、どういった条件があれば社会的に劣位にある言語・方言の復興や維持が可能になるのか、多面的に論じなさい。

【問題 3】

AI（人工知能）の技術が進んでいるが、AI が人類にとって不都合な結論を出したり、不利益を生じさせたりするような場合について、我々はどのように考えるべきであろうか。こうした問題に対して人工知能学会は 2017 年 2 月に倫理指針を発表した。この中では以下のように述べられている。これを参考にしつつ、具体例をあげて、論じなさい。

（社会に対する責任）

人工知能学会会員は、研究開発を行った人工知能がもたらす結果について検証し、潜在的な危険性については社会に対して警鐘を鳴らさなければならない。人工知能学会会員は意図に反して研究開発が他者に危害を加える用途に利用される可能性があることを認識し、悪用されることを防止する措置を講じるように努める。また、同時に人工知能が悪用されることを発見した者や告発した者が不利益を被るようなことがないように努める。

【問題 4】

出生前診断により、重い障害を持った子どもが生まれてくる可能性を事前に知ることが誰でもできるようになってきた。このことが、社会の中でどのような倫理的な問題を引き起こし得るかを論じ、さらにその問題に対する自分の考えを述べなさい。